

ガソリン携行缶の取り扱いガイド

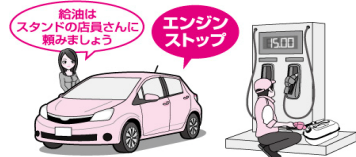
A ガソリン携行缶に給油するとき

- 1** 給油前に、パッキン・キャップ・エア調整ネジ・給油ノズル・本体に変形・亀裂・損傷・内部に錆び・異常等がないか確認してください。
※本体に変形・亀裂・損傷・内部が錆びている場合は使用を中止してください。



使用前にしっかり確認しましょう

- 2** 従業員のいる通常のガソリンスタンドで給油してください。
※静電気にはご注意ください。



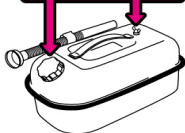
給油はスタンドの店員さんに頼みましょう

エンジンストップ

- 警告** ガソリン購入時には本人確認、使用目的の確認を行うことが消防法で義務づけられています。ガソリン携行缶に給油できるかどうかは、ガソリンスタンドの従業員にご確認ください。

- 3** 給油後は、キャップ・エア調整ネジをしっかりとめて、もれがないか確認してください。

しっかりとめる



- 注意** 給油量は、規定容量以内で給油してください。

- 注意** 給油後は、中に何が入っているか誰が見ても判るように、付属のシール(ガソリン・軽油・灯油等)を目立つところに貼ってください。

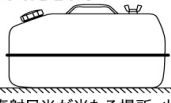


B 運搬または、運搬後保管するとき

- 1** 車載して運搬する場合は、必ずポリ袋に入れ、トレイ等の上に乗せてください。
※荷室内で移動しないよう、しっかり固定してください。



- 2** 安全で、傾きのない平らな場所で保管してください。



- 警告** 車内や直射日光が当たる場所・火や発熱体の近辺等高温になる場所・雨雪が当たる場所・湿気が多い場所等はガソリンの揮発や缶本体の変形・亀裂・錆び等につながり大変危険ですのでお避けください。

- 3** ガソリンは揮発性が高い為、内圧の変化でガソリン携行缶が変形する恐れがあります。適時エア調整ネジをゆるめ、圧力を調整してください。
※圧力調整時も火気厳禁です。



ゆっくりと圧力を調整

長期保管しないでください

- ガソリンも劣化します。長期保管したガソリンはエンジンに悪影響を及ぼす恐れがありますので使用しないでください。
- ガソリンにも水分が含まれています。長期保管をするとガソリン携行缶の錆びの要因になります。錆びている場合は、使用を中止してください。
- ガソリンによる内圧の変化で缶が変形を繰り返す亀裂等発生する場合があります。変形等している場合は使用を中止してください。



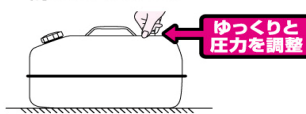
C ガソリン携行缶からお車や発電機等に給油するとき (ウエス、手袋を準備しましょう)

- 1** ガソリンは非常に危険な液体です。給油前に周囲の安全を必ず確認してください。給油されるお車・発電機等のエンジンを切ります。特に発電機や草刈り機等はエンジンを冷ましてください。
※静電気にはご注意ください。

エンジンストップ



- 2** 傾きのない平らな所に置き、必ずエア調整ネジで内部の圧力を調整してください。



ゆっくりと圧力を調整

- 警告** 内部の圧力を調整せずに給油キャップを開けると中身がふき出る恐れがあり非常に危険です。必ず圧力を調整してください。

- 3** ゆっくりとキャップをはずし、給油ノズルを取り付けしっかりとめてください。こぼしたり、人体に付着しないよう注意深く、慎重に給油してください。
※万が一の為、手袋等をはめることをおすすめします。
※誤ってガソリン等が皮膚に付いた場合は、ただちに石鹸等で十分に洗浄しましょう。



給油時にエア調整ネジを少しゆるめる

- 注意** 給油後はウエス等できれいに拭き取ってください。ガソリン携行缶内にガソリンが残る場合は、キャップ・エア調整ネジをしっかりと確実にしめてください。
※空の状態では保管する場合は、パッキンの劣化を防ぐ為、少しキャップをゆるめてください。



D 次回ご使用になる場合の注意

ガソリンの危険性について

ガソリンは気温が-40℃でも気化し、小さな火源でも引火し、爆発的に燃焼する物質です(軽油は+40℃)。

- 1** ガソリンは非常に揮発性が高く危険な液体であることを再度認識してください。



2-① 中身がある場合

使用前に必ずエア調整ネジで内部の圧力を調整してください。
※圧力を調整時も火気厳禁です。
左記④~⑥に記載されていることを再度確認してください。



ゆっくりと圧力を調整

2-② 中身がない場合

左記④~⑥に記載されていることを再度確認し、劣化部品(特にパッキン等)はお取替えの上ご使用ください。

